

壬生隼社／水菜は京の名産也。殊に洛西壬生らくさいみぶの地は火味にして、株小く莖の筋細く多くあり。故に千筋蟬菜などいふ。一説に水菜にあらず、壬生菜なりとぞ。畑より引て土ながら桐などの箱に入、かたく封じて廿日三十日の遠路へ遣し、これを開き水をそそげば青み出て、又元の如し。これ風土の奇なるべし。